

## 応化三期のクラス会だより

昭和 30 年応化卒業 高木 清

平成 20 年 11 月 11 日に大学応化三期のクラス会を開催しました。12 名の方の出席を頂き、場所は東京ガス四谷クラブで行ないました。

我々の年齢、多少前後しても、喜寿を過ぎたばかり、あるいは、近く喜寿を迎えるものという、喜寿の域に達したものの集まりとなりました。老齢化しており多少の不具合を持っているはずですが、身体の動きは良く、まだ 77 才という気概を持つ集まりであり、会合では趣味の事、旅行の事、ボランティアの事、パソコンの事などを多くのことが話題になり、明るく、楽しく歓談を行いました。

応化三期の会では、隔月の第三月曜日に、小さい集まりを行っております。都合のつくものは誰でも出席してよいのですが、横浜近傍のものが多くなっています。それでも仲間の近況の情報が入り、楽しい時間を過ごしています。

これから、時間とともに衰えが感じられるでしょうが、互いに会う機会を多くもって、末長く元気で暮らしたいものと念願しております。



# 「日韓交流業務と国際競争力」

佐藤 登（昭和 51 年電化卒・昭和 53 年修士修了）

## 1. 国際都市における日韓の存在感

### 1.1 最近のシカゴ情勢

2008 年 9 月中旬にシカゴで開催された国際会議に出席する傍ら、17 年振りにシカゴを訪問した。以前のシカゴのダウンタウンは日本人も多く、ホテル・ニッコーシカゴを中心に日本レストランやクラブもあったが、今ではニッコーホテルも無くなり日本レストランも影を潜めた。

シカゴでの創業が 50 年を超えるという日本食レストランを宿泊したホテルから紹介され訪ねた。タクシーに乗ると、ダウンタウンで最高のレストランのひとつと言う。しかし今は鮭カウンターで握る職人は全員メキシコ人で、多少の違和感は否めない。ここで働いている日本人に尋ねたところ、以前は日本の銀行やら商社などからの駐在員も多く、日本レストランも大勢の日本人で賑わっていたが、その後の駐在員の激減ですっかり変わったと言う。ホテルも撤退、日本レストランも激減、日本人職人も日本のお客もいなくなるという有様だ。

逆に製造業が近郊に事業所を構えている関係で、ダウンタウンから 30 キロほど離れたところに日本人や韓国人が多い。そこに新たに韓国レストランや日本レストランができて活気付いている。シカゴ近郊の韓国料理店を 2 軒訪れたが、2 軒ともお客は多いし美味しいし、サービスも良く満足した。

一方、韓国人が経営するタクシーの営業振りには驚いた。韓国人が運転するタクシーに毎朝ホテルまで来てもらい、ホテルから 80 キロほど離れた国際会議会場のアルゴンヌ国立研究所まで通ったが、英語も韓国語も通じるし、親近感もあり料金も割安感があって快適であった。韓国人の生活と仕事に対する逞しさを実感した。

### 1.2 メキシコシティへの訪問

シカゴの帰りはメキシコシティに 1 泊し東京へ戻ることになっていたが、テレビでの報道やガイドブックなどを見ても治安が良くないことが報じられている。メキシコ入りの直前、9 月 16 日はメキシコの独立記念日であったが、この日にメキシコシティから 400 キロ離れたところで大きなテロ事件が発生し 10 人以上が死亡、200 人近くが負傷したとのニュースが流れ、殊更不安が募った。シカゴの日本レストランでメキシコシティ経由の話をしたら、とても怖い所だと脅された。そのメキシコ人鮭職人にどうすればいいのか尋ねると、「行かないことが一番、行ったとしても出歩かないこと」だと言う。

一般のタクシーは危険、時々タクシーを使った拉致誘拐、強盗などが少なくないという。そのところは警戒して、事前に宿泊先のホテルであるニッコーメキシコに連絡してホテル専属のタクシーに迎えに来てもらうことにしてあった。そのタクシーでも話を聞くと、日中のビジネスアワーでは多くのビルや商店も営業していて人も多いからまずは大丈夫ということらしいが、ダウンタウンの夜間が良くないと言う。外国人は特に狙われやすいので夜間は出歩かないようにと忠告された。メキシコはスペインの植民地だったことから、市内の至る所にスペイン調の建築物やモニュメントが多い。昔ながらのメキシコ文化との調和もあって景観の良い街であるから、治安も早いうちに解決してほしいものだ。



市内中心にある広場



独立記念塔



ホテルの中は設備も充実していて快適だし、ここには日本レストラン「弁慶」が店を構えている。夕食を予約して鮎カウンターへ座ったが、やはりここでもメキシコ人が鮎を握っている。サービス係はと言えば日本語も英語も通じず、スペイン語で話しかけられる始末でいささか辟易した。

国際社会で起こっている昨今のテロ事件や誘拐拉致事件などを見たり聞いたりしていると、日韓の生活には一般的に安心感がある。しかし日本で最近増加している無差別殺人事件は正にテロ事件であり、一層の治安改善が必要である。お金では買うことのできない生活安全をどのように確保していくのか、行政としての取り組みが急務になっている。

## 2. 母校創立 110 周年記念講演

2008 年 10 月 16 日、母校である秋田県立横手高等学校の創立 110 周年記念式典が厳かに執り行われた。式典のキャッチフレーズは、「瞬間（いま）そして未来へつながる 110 年 光の軌跡」という今後の発展を暗示させる夢と希望に満ちた表題であったが、これは在校生の応募作品から採択されたものである。

本式典の 1 年前に、思い掛けない事態が生じた。この式典での記念講演を仰せつかったからである。それで実際の講演内容をどうするかを考えた時、まずは私ならではのメッセージが重要なので、学校生活から実社会へ出てホンダへ入社し 26 年 4 ヶ月勤務したこと、その中で業績を出しながらも様々な葛藤と闘い悩みながら大学の教授職を探していた段階、そして現在のサムスンからのヘッドハンティングがあったこと、すなわちこのふたつのグローバル企業に籍を置いて体験した部分から見える行動様式や文化の違いを整理すれば私のオリジナルになると考えた。

ホンダとサムスは世界の国際ブランド順位が 2007 年で、それぞれ 20 位、21 位と似通っていて、日韓の企業の代表として比較しやすい。その中で大きな文化の違いは、組織としての機動力の強さは日本の企業に共通していること、また韓国の文化を分析すると決裁が速く、そのプロセスもシンプルであるというところに特徴があり、個人レベルでの主張力も日本を上回る。さらにサムスンに移って一番驚いたもののひとつに、鬱病で休業している社員が見当たらないこと、日本の大企業では鬱病での休業はもちろん、自殺、ストレスと過労などが蔓延している実態は日本の国民病ともいえる部分を浮き彫りにしている。

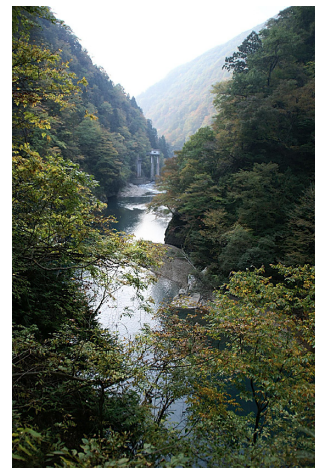
ヘッドハンティングは他人との違いがあるからで、自分自身を発掘することから全ての原点が始まる。それは結局、自己実現に向けたプロセスのひとつであり、そこを目指せば自ずと個人の強みが創られる。そのためには好きな分野を選択し開拓すること、そしてその中で弱みの補完にエネルギーを注ぐより強みを更に強くすること、そうした自己発掘でビジョンと信念をもち、それをいろいろな形で発信することが違いを創る基本となる。これはサムスンに移ってから更に一層感じるようになった。

しかし長い人生の間には当然ながら、逆境、苦境、挫折などの負のプロセスが押し掛かることは少なからずある。こんな時に、その状況から逃避するのではなく真っ向から立ち向かい克服する闘争力が必要だ。ただし闘うためには武器が必要であり、その武器こそが自己発掘による他人との違いを形創ることに他ならない。

世界は経済、産業、教育、あらゆる分野で国際化という波の中で流動している。人材もそうであり、嫌なこ



愛車と角館の武家屋敷



紅葉が始まった「抱き返り溪谷」

ともじっと耐え我慢しながら仕事を継続することではなく、好きになれるように工夫することが必要だ。場合によっては、自己実現のために目指すベクトルを変えることも選択肢のひとつである。そういう意識は私が見る限り、韓国社会には定着している感じがある。今後の新たな 110 周年以降の未来へ継承する輝きを、私も含めてひとりひとりが築いていくことを誓い講演を終えた。

どんな職業でも真のプロフェッショナルとは、自分の本業に誇りをもち愉しく取り組んでいる人々のことを言う。日韓を問わず、学校教育は将来の自己実現に向けて可能性を発掘する重要な意味をもっていること、意識改革と自己実現に向けた行動が個人の存在感と実績を生み出していくものであることは伝えることができたと思う。講演翌日には、秋田の小京都である角館にドライブし、武家屋敷の創りを見学しながら近くにある溪谷へと足を運び、やや早めの紅葉を目の当たりにしてリフレッシュした。

### 3. 産業文化研究と国際競争力

#### 3.1 九州大学での講演

韓国のウォン安もあって日本へ旅行する韓国客が激減している反面、日本からの観光客が急増している。2008 年 11 月 28 日に九州大学経済学部からの招聘による講演のために仁川国際空港から福岡へ飛んだ。九州大学には日本で唯一の韓国文化研究センターがあるが、韓国政府から資金が提供され設立された経緯とのことだった。

今回の訪問は、韓国の産業や文化、そしてその中で活躍する日本人の貢献度に関して分析し研究する経済学部主催の研究会に講師として招かれたものである。さすがに九州と韓国の近距離感から来る親密感や歴史的な文化交流の実績、そして拠点大学の研究テーマとあって関心項目も多岐に亘りレベルの高い研究機能である。

この研究テーマの中で扱われている関心事項には以下のようなものがある。「大財閥は産業基盤が強いのに、中小の基盤が弱いのはなぜか」、「材料や装置産業は日本は世界的に見ても強いのに、韓国ではその層が薄い理由は何なのか」、「サムスンがかようなまでに規模を拡大し、あらゆるビジネスまで手がけている状況下で、コントロールタワーが無いと総合的な判断が難しいのではないか」、「今後の韓国と日本、および中国との関係はいかに」、「これまでの韓国の産業発展に、日本人が果たした役割は少なからずあるのではないか」など。

韓国の半導体産業やディスプレイ産業、エネルギー産業も、素材や生産設備などを日本から多く調達している。これは日本のそのような分野が世界の先端を走っていることに起因しているが、国際競争力を高める上では最適な解をもって取り組むことが必要だ。国際競争力を高めることは、すなわち企業間競争力を高めることにも繋がる。

#### 3.2 国際競争力と教育との相関

世界経済フォーラムが発表した韓国の国際競争力は、130 カ国以上の中で 2006 年には 23 位だったが 07 年には 11 位まで躍り出た。これは大学進学率世界 1 位、革新主導経済への移行などが高く評価された結果と分析されている。2008 年には 13 位とやや後退したものの着実にその成果が現れている。日本は 06 年の 5 位から、07 年の 8 位、08 年の 9 位とじわじわと下げている。日本の強みは物価安定、経済規模と評価されている一方で、政府債務やマクロ経済の不安定性が指摘されている。英国は 2 位、9 位、12 位とその落ち込みは激しく、政治不信や貯蓄率の低迷などが足を引っ張っている。米国での金融破綻や市場の急な冷え込みがあっても、ここ 3 年は米国がトップの座を維持している。

教育水準は将来の国際競争力を占うバロメータのひとつであるが、03 年から 06 年にかけて、日本の科学的応用力は 2 位から 6 位、数学的応用力は 6 位から 10 位、読解力は 14 位から 15 位と下げ方向にある。これに対し 2006 年の韓国はそれぞれ、7 位、4 位、1 位となっていて躍進振りが伺える。特に読解力に関しては 10 年前のカリキュラム改訂で効果が現れ、日本を大きく引き離している。

国際競争力の基盤は教育に遡ることになる。産業構造においての国際的な存在感を強める上では、国を挙げた教育投資が今後ますます重要になると考える。そして日韓の産業と文化の交流によるアジアの拠点作りが、双方の競争的立場をとりながらも国際的地位を上げていく要素になるであろう。

**著者紹介** 1978 年本田技研工業(株)入社。社内研究成果により 88 年東京大学工学博士。97 年度名古屋大学非常勤講師兼任。99 年から 4 年連続「世界人名事典」に掲載。(株)本田技術研究所チーフエンジニアを経て、04 年 9 月からサムスン SDI(株)へ常務取締役としてヘッドハンティング入社。エネルギー研究開発部門統括。05 年度東京農工大学客員教授兼任。2008-2010 年秋田県学術顧問。HP: <http://members.jcom.home.ne.jp/drsato/> 日韓比較文化新聞連載記事全文掲載中。



# 横浜のプロフィール（私の自叙伝より抜粋）

池田 錦七（昭和9年応化卒）

## ◆波止場

日本への門戸・メリケン波止場はヨコハマの顔だった。

出船、入船、征く人も来る人も亦、哀愁と歓喜をドラが消し去る港町。また世界の一大貿易港として、地球の果てまでヨコハマは知れ渡っていた。異国の人が蝟集する街として。

波止場に、繁華街でも。マドロスが、苦力がそしてターバン巻の印度人が、跣で町を歩いていた。

井伊大老の開港は逸早く、文明文化の土産まで、持ちこんだのは「ハマ」である。日本最初の鉄道が走ったのは明治5年（1872年）新橋－横浜間を、岡蒸気と誰が言ったのか、目を丸くして見物客が多かったと、当時、下等運賃でも五十銭と高額なので、乗れる人が少なかったという。

## ◆伊勢佐木町

ここをハマっ子は「ザキ」と呼び、散策に、買い物・異国のグルメを味う街としていた。桜木町より歩いて10分。ハマの繁華街で衆知の盛り場。名のおこりとは、明治7年に遡る。開港間もない頃、この地域を開発したのが、伊勢屋文蔵と佐々木次郎の両名、その苗字を組み合わせ「伊勢佐木」の町と名付けたという。ハマ随一の繁華街である。

その界限には、吉田橋際に松屋が開業したのは私が学生の頃、少し流していくと野沢屋に着く。昭和の初め横浜にも、デパートの黎明期がおとずれる。さしづめ今言う歩行者天国、いつ来ても人通りが耐えない路。

両側には瀟洒な店舗。ファッショナブルな洋品店が建ちならぶ。ここにグルメの中華料理の博雅があった。横浜名物・老舗の喜楽のせんべい。軽食喫茶の明治・森永・モーリなど大衆食堂に混在し、学生・庶民で満席の盛況であった。

商いに抜け目のない横浜人は、娯楽施設をさらにその先に構えて、客足を奥へ引き付け入れる。一目で分かる道角に、洋画封切オデオン座があった。さらに進むと松竹・日活系のこれまた封切館、再映館や安劇場が看板・旗・幟を立て観客で終日賑う。ドイツ人・ワグマンが日本で初めて洋画を上映封切したのは、オデオン座だと言われている。

週末には決ったようにこの界限にて、三十銭・五十銭または一円の木戸銭を払い半日を楽しむ懐かしい歓楽街。

## ◆野毛

ここザキを北方向に市電通りを爪先上りに野毛坂を上り詰ると伊勢町に着く。ここに金物商鈴木清次郎家があり、中学時代の級友井口智彦君の紹介で、入校時・一月ほど世話になり学校に通う。息子善一君はY校の貿易科、井口君共々鎌倉へ避暑に出かけた親しい友である。

裏手が掃部（かもん）山公園になっている。港が一望に見渡せる風光雄大、また桜の名所にて市民の憩いの場であった。

横浜開港の恩人、また日本開国の先駆者・時の幕閣の大老・彦根藩主井伊掃部守直弼は、万延元年（1860年）桃の節句3月3日、江戸城外桜田門で、水戸浪士の襲撃をうけ、降り散る白雪を鮮血に染めた。直弼は今、像として祭られてこの丘に立ち、水平線の遙か遠い国々を、俯瞰凝視している。

## ◆関内から、盛り場へ

横浜とは東京の各所に散在する目ぼしい街を、坩堝に入れて熔し混ぜた街だと思えばよい。開港当時は「関門」があり、取締りがあったようだ。だから今もなお、関内と呼ぶ地域には、県庁初め諸官庁、正金銀行・生糸検査所・各商社、異邦人相手の店舗が整然と建ち並ぶ。

さらに進むと大棧橋に出る。ここに税関・大倉庫棟が控え異国情緒を醸し出す。いつ来ても出船のドラが哀

愁をこめて、波間に流れ吹き抜ける波止場となっていた。

その向いが臨海公園第1号、山下公園。帝国ホテルに匹敵するニューグランドが殿と腰をおろしていた。

踵を返す。その昔、馬車で賑ったという馬車道に出る。繁華街の伊勢佐木町の裏街は、多分に洩れないカフェ・バー・飲み屋が犇めき合って、深夜まで酔客は絶えない。

電車道を跨ぐ。曙町という青線・赤線街に出る。さらに堀向うがその昔、洋妾の館があったところ。一区画が遊郭となり、大鳥神社もあって、西の市には天下御免で誰もが足を踏み入れた遊樂街。

#### ◆山手方面

今は中華街といい、私達は南京街と呼んでいた。真黒な支那服をまとい纏足のお婆さんが、ヨチヨチと油ぎり、ニンニクの匂いが漂う横丁からよく出てきた。得体の知れない臍物、中国の物産を商う店、彩色鮮やかな飯店・菜館などが、ギッシリと立ち込める街である。

支那料理と言えば、南京街の右に出るところがないほど、知名度は高い。遠い故郷の大陸から持ってきたグルメの味だった。

北京！ 南京！ 上海！ 広東と四川の料理に大別される。おのおの違った持ち味を生かして、客足を引く。北京料理は甘口にて私の舌には馴染が薄い。四川は香辛がタップリと利き、広東・上海料理は淡白で、魚料理は美味しい。

山手に足を向けると外人墓地がある。附近一帯は閑静で見晴しがよい丘陵地、散策によくここに佇めば港・町街が一望出来て素晴らしい。遠い昔の安政元年、米艦ミシシッピー号の一水夫を埋葬したに始まる墓地が、今は約4千の墓碑がおかれ、ハマの名所・異人墓地として名高い。

#### ◆三溪園から磯子にかけて

ハマばかりではない。日本の名園として知られる三溪園は、四季折々の風情に富んだ、純日本式庭園である。眺望もさることながら文化遺産に造詣深い原富太郎が、関西または鎌倉より歴史的な寺塔・茶室そして重文に指定を受けた建造物を移築している。池川・林相に配し、蒐集した工芸品もまた、瞠目するものばかり。一度は鑑賞に出かけることをお勧めしたい。

体育の時間、理由は分からない。キャンパスの裏山を越えて岡村の天神様へ、時折往復した。これも足腰を鍛える一方法であったのか、楽しい思い出として残っている。

根岸の高台で時折り草競馬が催される。ギャンブル嫌いな私は、馬券は買わない。場外の此処彼処に、棧敷をかけて、垣間見の席があった。隠居の父は常連客となり、楽しんでいたようだ。

海沿いに磯子から杉田にかけて、内海のせいか波静かな干潟が続いていた。ここが遠浅で幾垣もの篭を立て、海苔の養殖を営み、行く先は浅草海苔に化す。水も温もれば汐干狩・流れ海苔が拾えるが、入海料が必要だ。隠居の父は山を越え、一日がかりで流れ海苔・浅利・汐吹き採りを楽しむ。母がそれを佃煮に、近所へ分けて喜ばれていた。私も数回父と行動、汐干狩の醍醐味と海洋牧場の偉大さを知る。

「峯村」の森深きところに、古刹丹海山がある。江戸時代この方「峯の灸」と言い、寺が施灸し良く利くとの評判が、近隣近郷遠くは江戸表まで、伝え知られていた。

生まれつき胃弱の私は、灸の世話になろうと決心。化学専攻者が灸をすえると言えば、古いと笑われる。だが、丈夫になりたい一心ですえに行く。確かに熱かった。壺を数ヶ所墨付けにし、艾に点火。一時の我慢我慢！ 壺が当たったのだろう。焼け痕は今も残るが、嘘のように丈夫な胃に戻った。有難い迷信の医療を私は信じている。今、峯の灸はあるのでしょうか。

#### ◆金沢八景

昭和の初め、六十余年前のハマの近郊には昔ながらの面影が此処彼処に残されていた。現在、海沿いは次々と埋立てられて、江戸期の景勝は鑑賞出来ないだろう。曾て金沢八景という名勝がある。

時代を遡り19世紀。江戸期の後半と言えば文化・文政頃である。江戸にては庶民の文化の華が咲き、遊芸に、または神社仏閣への参詣を名目に、物見遊山の旅が流行する。

その手引書を、葛飾北斎・歌川廣重…が版をおこし、各地各所図會として庶民に宣伝、売り捌く。先ず江戸より近い「金沢八景」も例外ではない。訪れ人が足を運んだ「八景」とは、ここ武州在、金沢には景勝の地が

八ヶ所に、観るところを変えてあった。

1. 野鳥の夕照
2. 乙鱸の帰帆
3. 洲崎の晴嵐
4. 平方の落雁
5. 称名寺の晩鐘
6. 内川の暮雪
7. 瀬戸の秋月
8. 小泉の夜

確かに所在はある。が、景観に触れるのは節と折が重なり合っただけのこと。私はその機会を逃し落雁も洲崎の晴嵐も見ないまま、横浜は離れていく。

八景のおこりとは、17世紀に遡る。水戸徳川家に招聘された明の禅僧・心越興壽が「武州金沢能見堂八景詩」の各節から由来している。当時の堂はいま、京浜急行・金沢文庫駅の北西に当る丘陵上にある。

#### ◆むすぶ

日本の文明・文化はメリケン波止場に上陸、芽生え根を全国土に張り広げていった。何もかも発祥の地ゆえに、名所古跡が諸処に散在している。

異邦人が住居すれば、洋妾が生まれ出る。彼等の食生活が日本人を変えて行った。ビールを醸し、豚を飼ってハムが生まれた。牛乳をのみ、サイダー・パンに至るまで、横浜が発祥の地である。ガス灯を明滅させたのも、横浜だ。

そのハマにて3年間、文明文化に触れ合うのち、社会の各様の片鱗を覗き垣間見て過す。見聞は知識を広め血肉にすると言う。わたしが貪欲に多くのことを学びとったのが、横浜である。今、近く湘南の地に在しているが、横浜をこよなく愛し、感謝の念でいっぱいである。

## 卒業生と学生が語り合う 国大化学会 “OB と語る会” の 講師を募集します

大学のカリキュラムの中で“OB と語る会”としてこれまで5年以上にわたって毎年数回、続けて来られている我々卒業生と現役の学生達が交流する会です。

参加するのは大学3年生と大学院生（主として修士1年生）で、教員も同席させていただきますが、講師は毎回2名で、内容は一方通行の講演会とは違い、終了後のコンパ付きの肩のこらないものです。会は先ず卒業生の方に30から60分程度話して頂いて、質疑応答、フリーディスカッションとなります。話していただく内容に制約はなく、後輩の学生へのアドバイスや訴えたいこと、現在やこれまでの仕事の内容、ご自分の経験された業界や職種のお話、日頃考えておられること等々何でも結構です。

会としても現役の学生に同窓会を認知してもらいやすい機会だと考え、全面的に協力しています。

1年に2回行っていますので、募集期間はとくにありませんので、リタイアされた方も、若い卒業生の方も含めて、ふるってご応募下さい。

問い合わせ先 庶務・会計G： 關 金一 045-339-3947 / 迫村 勝 045-339-3946  
堀 雅宏 045-339-3983